

扶桑昔廟最初
防府天満宮

佐加太利とは御鎮座地天神山の古来名
「酒舞山」からとったものです

佐加太利

令和6年
秋冬号

114号

目次

1 点描／空中散歩（本年10月上旬）

写真提供／
YAMAGUCHI DRONE STATION
（株）GT wings

2 巻頭言

3 崇敬会だより

こころのふるさと

防府天満宮

↳厚狭天満宮秋季例大祭調査
を通して

御神忌一一二五年

式年大祭記念事業

↳裸坊1万人奉仕を目指して
防府天満宮御旅所

「勝間の浦」改修竣工

寄稿 — 古老が語る —

8 天神様と私（3）

「官人の里」に生まれて

TOPICS

9 結婚おめでとう

ひたぶる

11・10 社務所だより

天神様の夏から秋〜日誌抄〜

12

予祝詣・初詣

これからの祭事行事案内



お祭り、その先に


宮司 鈴木宏明

今年の夏は猛暑続きの記録づくめの夏でした。三五度超えは当たり前前で四〇度にも届きそうな日が毎日のように続きました。気候変動はこれからも大きな社会問題となっていくでしょう。社会問題と言えば、気候変動にかかわらず高齢化と社会保障の問題、国際紛争や国防に関する事など、色々現代社会は問題を抱えているのではないのでしょうか。

先日ある方から「神主さんとして今一番の社会問題と考えることはなんですか」と質問されました。私は「ハテ」と考えましたが、即座に「少子化ではないでしょうか」とお答えしました。実際に近くの小学校ではクラスも減少し天満宮の境内にも子供たちの声が響くことは少なくなってきました。常々そんな境内は神様に寂しい思いをさせてしまっているのではないかと感じていたからです。そのようにお答えすると、その方はすかさず「ではその解決策はどこにあると宮司さんはお考えですか」と畳み込んできました。また「ハテ」と考えましたが、こちらも即座に「その解決策はお祭りを盛んにすることではないでしょうか」とお答えいたしました。なぜならば・・・

お祭りというものは神様への感謝と信仰の表現ではありますが、老若男女、利害関係もなく、思想信条も関係なく皆が集えるコミュニティだと考えています。そのコミュニティに入ることによって、人はその地域の一員だと認めてもらうことができるのです。すると、あそこにはこんな息子がいる、ここにもこんなお嬢さんがいるんだというようなことが、自然にみんなに、そして本人たちにもわかってきます。自分たちはこの村の出身者なんだ、自分たちはこのまちの出身者なんだという誇りと自分のルーツをお祭りに求めることができるのではないのでしょうか。お祭りとは本来その地域のアイデンティティーが備わっているものだと思います。その中で直接人と人とが会い、そして人と人とが理解し合う、そのような場が神社の祭りだと私は考えているからです。

防府天満宮の御神幸祭・裸坊祭も御神忌一一二五年式年大祭を迎えるにあたり一万人裸坊奉仕を目指しています。「兄弟わっしょい」の掛け声のもと、お祭りがどんどん盛んになる、そしてその結果、まちはひとつの家族のように発展していく、その先に新しい命も生まれてくるのではないのでしょうか。

※本ページの天地に掲載した(重文)松崎天神縁起絵巻は、全六巻計約75メートルにおよびます。本号ではその  の部分を紹介しています。



崇敬会だより

この度、役員改選が行われ、新会長に岡正朗氏、名誉会長に福田百合子氏が選出されました。新役員は次の通りです。(敬称略)

- 名誉会長：福田百合子
- 顧問：山中祥弘・馬場良治・田中康男
- 会長：岡 正朗
- 副会長：網川智久・羽嶋秀一
- 監事：山田楨二・塩田津多子
- 理事：宇野好一・山田梓江・鈴木典子



名誉会長
福田 百合子

天神様への心からの思いを共にする崇敬会会長を、自分でも驚くほど長く務めさせていただきました。父、祖父、曾祖父は山口御堀の外郎屋として、天満宮様への信仰篤く、境内の玉垣石柱にその名を刻んでいるのです。私の両親も兄弟もこの事実が嬉しく、自慢でもあり、お参りの度に必ずこの玉垣の石柱を撫でました。我が家には大神宮様始め神様を祀る場が多いのですが、天神様は別格です。花庭の奥に別棟のお社が石垣の上に鎮座、毎月神を新しく供えて拝みます。防府ロータリークラブ例会卓話で、このお話をしたご縁もあり、崇敬会の研修旅行、東京支部設立、総会、懇親会など思い出も多く感謝の極みです。今回、高齢の為、引かせていただくことになりました。岡先生(県立大学理事)ご就任を心より嬉しく御祝申し上げ感謝のご挨拶と致します。



会長
岡 正朗

この度、福田百合子前会長の後任として防府天満宮崇敬会会長を仰せつかりました。私ではいささか力不足とは思いましたが、皆さまのご協力を得て、務めさせていただきますので、宜しくお願いします。私は1950年5月5日に防府市栄町で生まれ、高校まで防府市に在住しておりましたので、天神様は物心ついていたから神様であり、生まれながらの氏子でございます。また、昔公がお生まれになった8月5日は、私の長男の誕生日であり大変畏れ多いことでございます。従って、この度の会長就任はこのほか大変名誉な事と存じております。

子供のころは、お祭りの度に親戚が集まり、ちらし寿司を食べていたことを思い出します。天神様の山手に遊園地があり、そこにも連れて行ってもらった思い出や、友達と天神山の山頂に上り、水晶を探したことも思い出されます。この様に、防府の町は天神様を中心として親戚や町内会の皆さん、友人同士が深く繋がっています。本崇敬会は、まさにこのような組織と私自身は思っております。

新型コロナウイルス感染症やIT、AIの影響で人とのつながりが希薄になりつつあります。防府には天神様という有難いシンボルがありますので、崇敬会が今後さらに大きな輪となって、人と人の繋がりを強くすることを願っております。そのために、誠心誠意取り組みますので、ご指導・ご協力をお願い致します。

結びに、令和9年春には菅原道真公の御神忌一一二五年式年大祭が斎行されますので、絶大なるご協力をお願いしまして、私の挨拶とさせていただきます。

「第三回東京支部総会・交流会」開催

本年十月十九日にハリウッドビューティープラザに於いて五十五名が参列。まず、崇敬会東京支部繁栄祈願祭を斎行、引き続き総会を開催。総会後は鈴木宮司が「昔公の和魂漢才」と題して記念講演を行いました。



▲東京支部参加の皆様

その後、交流会に移り、参加者が自己紹介や天満宮の思い出話をしながら大いに親交を深めました。

また今回の総会に合わせ、当宮青年部若梅会が岡俊明会長以下十二名で参加。同会は、ハリウッド貴賓室入口に掛ける注連縄を毎年奉製しており、実際に掛けられている注連縄を初めて目にし大変満足していました。

崇敬会新規入会

令和六年五月一日以降入会の方々です。(順不同敬称略)

- 永年会員 岡 正朗 防府市栄町
- 特別法人会員 MIRAIMI 柳井市旭ヶ丘
- AS Company(株) 山口市平井
- 特別会員 中村 和彦 防府市駅南町
- 家族会員 藤本 実 防府市桑南
- 村上 守 宇部市明神町
- 時森 二郎 熊毛郡田布施町
- 竹内 慎一 防府市高井
- 松本 耕一 長崎県老岐市
- 小山 勝宏 群馬県前橋市
- 山本 泰子 防府市惣社町
- 土師 宏隆 岡山県岡山市
- 個人会員 佐野 記子 東京都江東区
- 小松 明美 下松市河内
- 村上 恵子 美祿郡美東町
- 玉野 由美子 周南市五月町
- 網本 陸夫 周南市須々万
- 土師 潤子 岡山県岡山市

崇敬会入会をご希望の方は、同封の入会案内を御覧の上、お申し込み頂きますようお願い申し上げます。

「じろのふるさと」 防府天満宮

「厚狭天満宮秋季例大祭調査を通して」

山陽小野田市厚狭に鎮座する厚狭天満宮（正式名称菅原神社）は、寛永二年（一六二五）に厚狭毛利家の助言により、当地の枝村家が萩市に鎮座する金谷天満宮から勧請し、鎮守の神として創建したと伝わっている。しかし天保年間に激しい水害にあい、現在の天満宮は明治十三年に地元有志者の手により再建されたという。勧請元の金谷天満宮は太宰府天満宮から勧請された天満宮だが、防府天満宮の影響が色濃い。今回は地元の天神信仰と昔から重んじられている氏神様、そして防府天満宮の三者の関係を示す事例として興味深い調査となった。

① 古式行事保存会の発足

厚狭天満宮の例大祭は、戦後資金不足や人手不足により衰退していたが、昭和五十二年、歴史と伝統を継承しようと「古式行事保存会」が発足した。以降、大行司・小行司また裸坊や奴やっこといった諸役が秋季例大祭の中で、現在まで受け継がれてきた。今では市や商工会議所などと協力し、様々な催しと併せて十一月第二日曜日に「厚狭天神秋まつり」として地域をあげて執り行われている。

② 大行司・小行司のこと

厚狭天満宮の大行司・小行司は、防府天満宮のように御神幸祭の責任者ではなく、「大殿」「小殿」という役を代表とした「古式行事」いわゆる大名行列を構成する二つの集団名を指している。その集団はそれぞれ警護役として、みの箱、弓、片箱、台傘、たくだ槍で構成される奴と、最後尾に馬に乗った「大殿」・「小殿」と続く。古式行事の詳しい起源は不明だが、地元の方によると、「厚狭には殿町



▲御神前に奉納される「みの箱」

という地名があり、お殿様が住んでいた。大殿・小殿はその歴史に由来し、古式行事はその大名行列を模したものではないか」と言う。

「古式行事」は、秋季例大祭の前に神前に奉納されるが、防府天満宮の「お宮入り」に倣ったものと思われる。大行司・小行司の集団は厚狭川を境目として二手に分かれ、二つの集団は厚狭の町中を東西に分かれて練り歩く。最後に厚狭天満宮の参道で合流し、小行司、大行司の順で神前に「奴の手ぶり」を奉納する。なお、昔は東と西を練り歩く集団は一年おきに東西を交代していたという。「古式行事」は明治三十年頃から厚狭天満宮秋季例大祭へ奉納されるようになったと言われる。



▲厚狭天満宮ご社殿
写真はすべて令和6年11月10日撮影

③ 古式行事について

現在の古式行事は、厚狭地域交流センターで御祓いを受けてから厚狭天満宮へ出発する。

集団が天満宮へ向かう途中、みの箱が奴行列を外れ、道すがらの商店や畑、家などに入り、奴の所作を行い、商売繁盛、五穀豊穰、家内安全を願う。みの箱は奴の中でも代表的な立場であり、みの箱だけは例大祭に参列できる。古式行事は、天神様の御神徳を人々に授ける役割も担っていると云えるだろう。一方、代表者の大殿・小殿は狩衣を纏い、天上眉が描かれ、殿様の風貌をしている。防府天満宮の大行司・小行司に見られる首から下げたお守りや竿衣は、厚狭天満宮の行事では登場しない、などの差異がある。

到着後秋季例大祭が斎行され、古式行事の奉納を奉告し、あらためて厚狭地域の繁栄と安寧を祈念する。この後、裸坊率いる御神幸となる。

④ 厚狭天満宮の裸坊

厚狭天満宮の裸坊の姿は防府天満宮と酷似している。目好正宮司は、「厚狭天満宮の裸坊は、防府天満宮に倣って行なわれてきたのではないかと語る。御神幸前に御網代に「御霊遷し」をし、行列は出発する。行列の構成は露払い（大潮）、高張提灯が供奉し、御網代と続く。

裸坊の男たちは白装束にたすき掛けをし、両肩と腹に御神紋の印を押す。現在では裸坊の人数は三十名ほどだが、古くは道を塞ぐほど裸坊があふれていたという。



▲鴨神社でお参りをする裸坊たち

裸坊たちは厚狭天満宮を出発すると、まず氏神様の鴨神社へ向かう。これは裸坊が町中を天神様に乗せた御網代を曳く前に、氏神様へご挨拶をするためだという。その後、本町、千町、寝太郎、鴨の庄と厚狭全域を約三時間かけて巡り、御還幸となる。

厚狭天満宮の裸坊の掛け声「わっしょい、兄弟」は、「みんな神様の子供だから、兄弟として奉仕しよう」という意思の現れといい、防府天満宮のそれと同様である。網代には常に二、三人が乗っており、前方に乗る裸坊は進みながら御幣を振り、厚狭の町中を御祓いする。またご祝儀を奉納した家や店には網代振りが行なわれ、総代からお守りが授与され、大切に店先などでお祀りされる。

おわりに

各地にある天満宮の多くは江戸期の天神信仰の高まりにより、もともとあった氏神社に加え、（勸請し）建立されている。この度の厚狭の例も鴨神社に付属する形式といえよう。厚狭天満宮は金谷天満宮より勸請したとの由緒を持つ。しかし、現在の祭典の内容は同宮の例祭を核に、防府天満宮（御神幸祭）に倣う。まつりの意義は異なるが、御網代神輿と裸坊による御神幸やお宮入り行事といった、全体のかたちを重ねている。大切なのは、もともとの氏神様である鴨神社への礼儀を忘れていない点があげられる。ここには、神様に守られ地域を共に発展していることとする民衆の姿がうかがわれた。



▲お祓いをしながら進む裸坊たち

防府天満宮に倣った神事（御神幸祭や大小行司、花神子など）、防府天満宮天神講社についてご存じの方がいらっしゃれば、防府天満宮 高橋（代）0835-1231-7700（まで）一報下さい。



間の浦」改修竣工

～1万人裸坊奉仕を目指して～

お旅所「勝間の浦」のご説明は同封しております別紙をご覧ください。



「菅公御着船の地」の石碑(宮司揮毫)

十月二十九日、羽嶋奉賛会会長をはじめ、役員、御神幸祭関係者、地元の方々など約六十名が参列し標記竣工祭が斎行され、引き続き記念式典が行われました。式典では、羽嶋秀奉賛会会長（防府商工会議所会頭）より「これまで天満宮と共に裸坊祭にご尽力いただきました地元をはじめ各関係者皆様の支えがあつてこそ毎年の裸坊祭が斎行出来ています。今後もお互い連携を深めながら菅公御着船のこの地を『裸坊の聖地』として後世に伝えていきたいと考えています。」と話され、「防府の元氣は裸坊の元氣です。なぜなら、スローガン『二万人裸坊奉仕』の実現は県内外から訪れる参加者・観光客による交流人口の増加をもたらし、結果大きな経済効果が期待できるからです。今後も『兄弟わつしよ』の心を持って、地域の宝『裸坊祭』となるよう目指して力を注いで参ります。」とご挨拶されました。最後に宮司より謝辞を申し述べ、閉会致しました。



▲挨拶をする羽嶋奉賛会会長



▲竣工祭



▲整備された南側。御着船当時の向島・田島を再現。



▲玉垣に囲まれた浜殿がある北側(本年御神幸祭当日)

一本松神社(遷座祭10月27日)

〈由緒〉道真公は大宰府の天拝山で無実の誠を書き綴った祭文を天にかざしたところ、この誠の心が天に届き「天満大自在天神」の称号を戴かれ神とられました。

一本松神社ではこの時の道真公の強く聖なる御魂の働きである「荒魂（力強く進み行く御魂の働き）」をお祀りしており、その御神徳は、「何事にも負けず、自分を信じ突き進み、新たなものを手にいれる力の作用」と言われています。このことから一本松神社では神とられた天拝山のある西側を向いておられます。なお防府天満宮では道真公のおだやかな御魂の働きである「和魂」をお祀りしています。



「官人の里」に かんじん 生まれて

小行司家（元承仕） 清水 玉夫 （昭和九年生）



▲2回目の小行司役を奉仕する私(平成6年)

私は防府天満宮御神幸祭小行司家として奉仕しています。小行司家とは御神幸祭の無事齋行を願う家柄で、大祭では重要な役目と自覚しています。生まれは、防府市東佐波令の畑（通称人丸）というところで天神山の北側にあります。ここはその昔、国府の役人をしていた藤井家・清水家の一族が多く住んでおり、別名「官人の里」といわれていました。天神山と多々良山の間、ちょうど現在の防府競輪場あたりを抜け、国分寺を通り国府までの古道があり、この道を通って政務についていたようです。しかし、なぜ藤井家・清水家が一地区を形成していたかは定かではありませんが、両家とも国府の役人だったお陰で、国府が主導し行っていた御神幸祭を通し今に至る天神様との深く永いつながりを築いてきたのだと思います。現在でも職は違えど藤井・清水は二十数軒ほどあります。同姓が多かったので屋号と呼ばれ、私の家は関所の近くにあったので「関屋の清水」と呼ばれていました。そのような私達の祖先は「官人の里」を一望できる高台に一族のお墓を建てました。お墓参りには大変難儀をしていますが、自分たちが築いた里をいつまでもいつまでも見守れるように、また子孫がこの里を大切に残せるようにと願ったのではないのでしょうか。



▲御旅所にある「菅公着船の碑」（文化4年（1807）建立）
この碑文の中で「菅公御着船の時に勝間の浦にて周防国司 土師信貞と国府の役人であった藤井某と清水某が見送った」とある

二十数軒ほどあります。同姓が多かったので屋号と呼ばれ、私の家は関所の近くにあったので「関屋の清水」と呼ばれていました。そのような私達の祖先は「官人の里」を一望できる高台に一族のお墓を建てました。お墓参りには大変難儀をしていますが、自分たちが築いた里をいつまでもいつまでも見守れるように、また子孫がこの里を大切に残せるようにと願ったのではないのでしょうか。



▲里を見下ろす一族の墓



▲小行司役を奉仕する前に小行司家を世襲する証として頂いた「系譜状」

振り返ってみますと、昭和四十五年初めて小行司役を奉仕して早五十五年、平成六年には二回目の奉仕をしました。また平成八年から二十数年にわたり、小行司「承仕」を務めました。「承仕」とは、社坊があったころの社官の役職で、以来は御神幸祭に関わるすべての祭典で神職の補佐的な役割を果たす役職だと聞いています。ですから巫女さんの手伝いもします。祭典中、巫女さんが足をしびれさせ立ち上がれなかつた時など、とっさに代わりを務めたこともありましたが、また、佐波川漁業組合長時代、御神幸祭千年の記念事業で「佐波川での台車清め」を行った際は、台車が川にスムーズに降りられるよう組合長として関係各署と協議を重ね、河岸を整備したことを思い出します。これは直接「承仕」の仕事ではありませんが、いい仕事をしたと自負しています（笑）。「承仕」の役職は退きましたが、先々代鈴木品一宮司、先代鈴木健一郎宮司、そして現鈴木宏明宮司と三代にわたってご奉仕申し上げ、同族会の一員として一生懸命天神様の為にお世話をさせて頂きました。

この「官人の里」に生まれ育ち、天神様とのつながりを大変有り難く、誇りに思っております。そして何よりこの里を守ってこられたご祖先に心から感謝しています。本年十月には「令和九年御神忌千二百二十五年式年大祭」の記念事業として、防府天満宮御旅所「勝間の浦」の整備がなされました。私も年を取りましたが、心新たにご奉仕を続けていかなくてはならないと思っています。

※同族会とは・・・昭和四十年に大行司家「藤井家」・小行司家「清水家」の同族が防府天満宮の最重要である裸坊祭を永劫にご奉仕するために結成された。大・小行司役はこの家柄の者しか奉仕することができない。

大河ドラマ「光る君へ」をご覧になっていますか？

このドラマで“清少納言”役を演じている俳優のファーストサマーウイカさんが来宮。この度は山口大学でのトークショーのために来県、これに併せ、清少納言や父・清原元輔きよはらのもとすけにゆかりの防府市をそして防府天満宮を訪問されました。

実は、清少納言の父・清原元輔は、天延2年(974)に周防守すおうのかみ(国司の長官)として赴任し、清少納言もここ防府で4年間を過ごしたようです。

父・元輔が詠んだ詩に

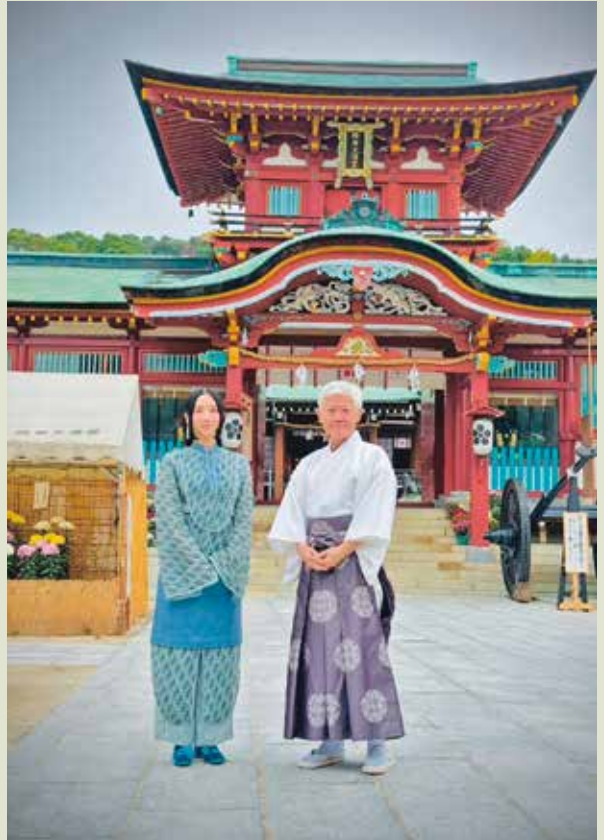
「思いでよ 千年の春のけふごとに

勝間の浦の岸の姫松」 ~元輔集より~

があります。

当宮では、宮司より由緒説明を受け、1004年に始まった御神幸祭と清少納言が一条天皇の皇后である中宮定子に仕えた時に執筆した「枕草子」にふれ、防府天満宮と一条天皇との深い縁に驚いておられました。

※清原元輔…平安時代中期に活躍した歌人。その才能を生かし「万葉集」の訓詁を手掛けた他、「三十六歌仙」の一人でもある。



ひ た ぶ る

防府天満宮へ奉職し5年が過ぎた。この5年間で最も大きな出来事は結婚し、家庭を持ったことだ。防府天満宮の大前で誓詞を奉読した時、「何とも言えない不思議な感情」が沸き上がったことを覚えている。思い返せばあの感情は緊張していたのではなく、責任を感じていたのだと今では思っている。これから私と共に先祖様から頂いた命を未来へ受け継いでいってくれる妻を持ったことへの責任があの感情を湧きあがらせたのだろう。

今年防府市に豪華寝台列車「トワイライト瑞風」が立ち寄るようになった。防府市にとっては大きな出来事だ。この

権禰宜 高橋 正成

「瑞風」は吉兆をあらわすみずみずしい風という意味だが、私たちの住む日本の国も同じ「瑞」という漢字を当て、「瑞穂の国」という美称がある。みずみずしい稲穂が豊かに実る国という意味だ。この瑞風の立ち寄りには防府に住む私たちに新たなみずみずしい生命を与えてくれる吉兆かもしれない。

私の新たな家庭にも「瑞風」を吹かせたい。そして子供が成長して、一息つける時が来たら、妻と共に豪華寝台列車で旅をしたいものだ。その時は新たな「何とも言えない不思議な感情」が沸いてくるのだろう。

ご結婚おめでとう

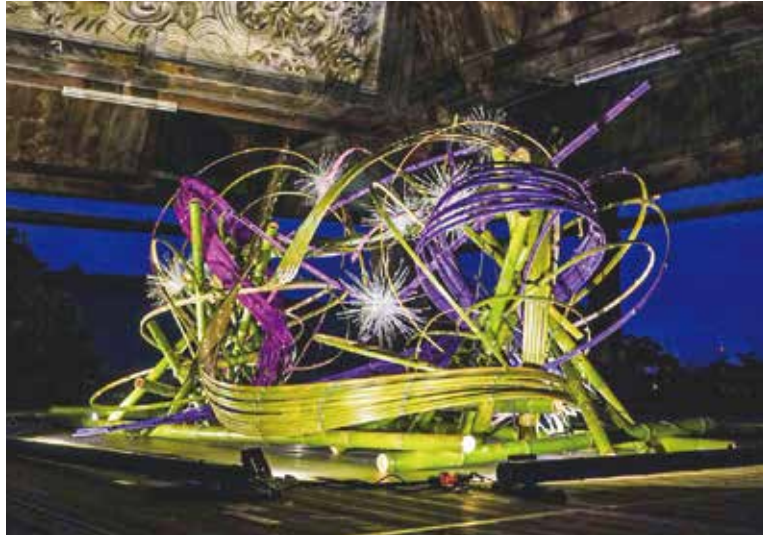
お二人の末永いお幸せをお祈り致します

令和6年 (神社奉式分/敬称略)	
10月26日	松見 慎之介・育花
10月20日	橋津 裕亮・祐希子
10月14日	臺 一磨・侑子
9月22日	熊谷 拓也・葉子
9月1日	ブレイン クリス・ありさ
7月14日	新澤 亮・明日香
6月18日	阿部 徳彦・千里
6月15日	河村 靖・佳子
6月12日	池本 尚平・みなみ
6月8日	石田 貴之・安美
11月2日	倉重 雅樹・景子
11月3日	西山 優輝・茉佑
11月16日	原田 尚幸・早彩
11月30日	河野 正憲・結花
12月1日	田中 真人・智子
12月7日	古川 昌宏・愛子
12月22日	石川 正洋・実来
12月24日	リチャードイアン リース・久美子
11月2日	斎藤 毅・花凜

※神前結婚式のお申込みは随時受付
けておりますので、社務所へお問
い合わせ下さい。
(TEL)0835-123-17700)

七夕まつり

では新たな行事としてエシカルバンブー(株)(防府市)が七夕まつりを盛り上げようと新たに企画したバンブーオブジェがお目見え。多くの参拝者を楽しませた。



▲春風楼にライトアップされたバンブーオブジェ作品「竹林財宝」(作者:いけばな草月流金子凛草先生)。同社は、全国的な問題になっている放置竹林を計画的に管理伐採し、持続可能な有益な資源として竹を製品化し、環境保全に貢献されています。

花神子社参式

(御神幸祭の無事成功を祈る祭)

大行司役

藤井 正浩氏



小行司役

清水 博道氏



花神子役

鈴木 優さん



日誌抄

(令和六年六月〜十二月)

- 毎月1日、15日、25日は月次祭
- 毎月1日は朝日詣り(朝禊会)
- 毎月25日は天神市(縁日・月次茶会・祖霊殿月次祭神道家まほろばかふえ・どぶろく(濁り酒)奉納)
- 6月4日 責任役員会
- 9日 御神幸祭供養委員会総会・正式参拝
- 9日 青年部若梅会総会・正式参拝
- 15日 北海道三景天満宮願間大西様正式参拝
- 16日 長崎県佐世保市春日神社・日野九十九島神社合同参拝旅行団9名正式参拝
- 21日 総代会・正式参拝、牛舂神事発展会議、月次茶会開催なし、どぶろくカフェみづは様毎月25日どぶろく(二五り酒奉納開始)
- 25日 敬神婦人会七夕飾り奉納奉仕
- 27・28日 南ほうふ外部本舗様「ほうふ水無月」奉納奉告祭
- 30日 夏越神事、大般若、御田植祭、掃除祈願祭、「ほうふ水無月」160食無料配布
- 30日 御田植祭、掃除祈願祭、「ほうふ水無月」
- 7月1日 七夕まつり期間中笹飾り短冊頒布、光の斎庭(兼玉アート、アンブレラスカイ)、七夕笹飾り奉納・参拝、多々良幼稚園・松崎幼稚園・瑞祥幼稚園・佐波幼稚園・勝間小学校・松崎地区母子保健推進協議会、しあわせ大人女子旅 エシカルバンブー(株)奉納バンブーオブジェ「竹林財宝」展示(春風楼)
- 4日 三社会(太鼓谷稲成神社、佐嘉神社、藤崎八幡宮)14名様正式参拝
- 6日 七夕茶会(参集殿、浴衣モデル撮影会、奉納清書展二次審査ものづくりワークショップ)
- 6日 七夕祈願祭、筆まつり並筆まつり七夕書道展・同表形式、七夕キッズコレクション(オリエンタル和装) ひこほしおりひめコンサート(水本論・Vocalizing)、KDSダンススクール、ANAコラボレーション「御朱印鑑記者発表(当宮頒布デザイン)とANA販売デザイン(通販サイトにて販売の二種類を制作)
- 7日 式年大祭広報委員会
- 6日 松崎佐波地区子供会連合会境内清掃奉仕約400名
- 6日 夏休み子ども教室
- 6日 梅風会山口県支部総会・正式参拝、月次茶会表流合月会子ども茶会
- 6日 梅の土用干し開始
- 6日 天神梅子梅っ子夏合宿
- 6日 防府総合支援学校教員異業種体験実習
- 6日 御誕辰祭(夏祭り)
- 6日 万灯の夕べ、献燈ボンボリ奉納、文芸ボンボリ奉納、ピアガーデン、子ども花火、こどもクイズラリー、大茶碗茶会
- 6日 奉納清書奉告祭・同表形式、三日祭並万灯祭並同点灯式、剣道大会、子供梅みこし、ドローンイベント、天神サマーフェスティバル
- 6日 四日祭並豊饗祈願祭、古武道大会、遠的弓道大会、柔道大会、夫婦円満祈願祭幸せ大盤振る舞い餅まき、和太鼓レレレ(麗美大太鼓・天神梅っ子、絵唱会浴衣&歌謡コンサート)
- 6日 御誕辰祭当日祭、奉告祭役員11名就任奉告祭、少年剣道大会、薫童子奉納和太鼓演奏、大花火大会、キッズダンスフェス、都山流尺八楽観山会邦楽コンサート
- 6日 大専坊ボーリング調査
- 6日 大社園学園実習生3名受入
- 6日 お頼み会、月次茶会表流華松会渡辺宗恵先生(奉仕)
- 6日 式年大祭広報部会
- 6日 お手廻り保存会宣誓式、防府菊花会総会
- 6日 式典保存委員会、式年奉養委員会、島根・山口両県知事来宮
- 6日 千歳船奉製始め
- 6日 お鏡上げ神事
- 6日 鈴虫放生祭、防府天満宮杯将棋名人戦
- 6日 納骨殿北側斜面伐採・清掃作業
- 8日 9月1日 25日
- 8日 8日 14日
- 7日 3日
- 7日 29日 30日
- 7日 29日 31日
- 7日 3日 5日
- 7日 9日
- 7日 24日 25日
- 7日 20日 21日
- 7日 17日
- 7日 17日
- 7日 6日 7日
- 7日 6日 7日
- 7日 4日
- 7日 30日 29日
- 7日 27日 28日
- 7日 25日
- 7日 21日 16日 15日 9日
- 7日 16日 15日 9日
- 7日 9日
- 7日 6月4日

島根・山口両県知事来宮



▲旧毛利本邸で行われた知事会議に先立ち、当宮を参拝されました。(写真左より)丸山達也島根県知事、宮司、村岡岡政山口県知事、池田豊防府市長

ANA×防府天満宮の御朱印帳



▲令和9年に斎行される御神忌1125年式年大祭を奉祝し、制作されました。当日は記者発表が行われ、客室乗務員が来宮、七夕まつりに花を添えてくれました。是非旅のお供に!



こころ新たに 年の始は天神様へ

初詣のご案内

防府天満宮は12月25日からお正月



旧年の感謝を
捧げるとともに、
新年の幸せを願ひ
天神様へ
ご参拝頂きますよう
ご案内申し上げます。

令和7年 新春の祭事行事

●交通規制について●
元日から3日まで当宮周辺は交通規制があります。
詳細は同封の「防府天満宮初詣おもてなしMAP」
もしくは下記QRコードを携帯電話スマートフォン
のカメラで読み取ってご確認ください。



・予祝詣
令和六年十二月二十五日から
三十一日まで
お正月の破魔矢・縁起物等の頒布を致しております。



・歳旦祭 一月一日 午前三時より

・書初め・梅茶接待(無料) 於参集殿
一月一日十三時～十六時

二・三日両日共九時～十六時

・天神おんな神輿写真コンテスト於参集殿
一月一日～八日 九時～十六時

・千羽鶴ドローンショーとAIさんミニライブ
於春風楼 一月一日 午後五時三十分

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

・新始式 一月五日午後三時より

・七草粥の会 於参集殿
一月七日 午前六時三十分より

・貞宮遙拜式 一月十一日 午前十時より

・弓始式 一月十三日 午後一時より

・節分祭牛替神事 二月二日

・梅まつり 二月十六～三月二日

人形感謝祭 三月一日

人形預かり期間 二月十一日～二十八日

人形里親探し 三月一日～五日

※節分祭牛替神事・梅まつりは同封のチラシをご覧ください。



令和7年 特別ご朱印のご案内
(切り絵朱印)
一月一日より頒布 一二五枚限定

初穂料 2,000円
※初穂料は式年大祭奉賛金として納めさせていただきます

第二回 さくら咲まつり

日時 三月二十九三十日

境内約四五〇本のさくらが満開のころ、新装になった防府競輪場と共催し、食フェスを中心とした《さくら咲まつり》を斎行しますので、ご家族お揃いでお参り下さい。詳細はホームページにてお知らせいたします。



▲昨年の様子

さかたり第114号
令和6年12月1日発行
発行所 防府天満宮社務所

〒747-0029
山口県防府市松崎町14-1
TEL 0835-23-7700
FAX 0835-25-0001



防府天満宮 検索 Times
facebook X (旧 Twitter) Instagram